

# 3年次編入説明会

知識情報・図書館学類

知識情報システム主専攻 4年

沼口 天

# 自己紹介

## 沼口 天

- ・ 現在大学4年生
- ・ 語学系の専門学校 ⇒ 筑波大学  
(語学系と言っても、別に英語が話せるわけではない)
- ・ 筑波大学を志望した理由
  - ▶ ~~情報学群ってなんかすごかったこいいと思ったから~~
  - ▶ 情報学のみならず、図書館学類ならではのアーカイブ学への知見を深めることが、斬新なシステムの発想へつながると考えたから

# ※WARNING※

これから偉そうに編入試験の攻略法みたいなものを語りますが、それらはすべて本人の主観に基づくものであり、確たる証拠を持って発言しているわけではありません。

また、本人は編入学試験の成績開示を行っておらず、実際の点数を知りません。余裕で合格していたなら良いのですが、ギリギリの合格だったかもしれません。

今回は一応合格者の体験談として、聞き流す程度に聞いてください。

# 編入試験について

## 試験までの手順

あらかじめ学習計画書を作成し、期日までに提出



試験当日に、学習計画書の内容を発表

▶ 発表時間（20分）＋ 質疑応答（10分）

# 学習計画書

- ①自分が大学入学後にやりたいこと（研究）を書く  
→これまでの自分の学びと絡めて書くといいかも？
- ②分量は人それぞれ。いっぱい書いたからいいというものでもない  
→だいたい自分はA4用紙20枚程度。
- ③熱意が伝わるような書き方を意識する  
→自身が今後やりたいことは、知識情報図書館学類でしか学べないということを強くアピールする。
- ④誰かの学習計画書を参考にする  
→自分は先輩の学習計画書を参考に書いた。

# 学習計画書

知識情報・図書館学類への編入学を希望する者は、主に次の2つのタイプがあると考えています：

- ① 類似した領域から来て、そこで習得した知識・技術を深めることをめざす
- ② 異なる領域から来て、そこで習得した知識・技術をもとに新しい道をめざす



令和3年度学群編入学性募集要項より抜粋

- ・ 自分が上記のどちらのタイプなのかを明記した上で書いていくとよい。
- ・ 自身のやりたい研究については、ある程度文献を調査し、現実味を持たせて書くとよい。
- ・ 文章構成はストーリー性を重視した。  
背景（3割）＋研究内容（5割）＋所属したい研究室や、取りたい授業など（2割）

# 発表

## ①表現方法に制限はない

→自分はパワーポを使って説明した。スライドは10枚程度。  
20分以内に話しかれる練習をしておくといい。

## ②質疑応答の内容

→僕個人に関する質問7割 + 学習計画書の内容3割。

## ③あらかじめ説明資料を試験官に配布してもよい

→自分はスライドのコピーを事前に配布した。

## ④練習は徹底的に

→本番は意外と緊張する。とにかく練習を積むべし。

# 単位認定について

単位認定とは・・・

入学前に履修した単位を、筑波大学の単位として認めてもらうこと

最大で68.5単位認定してもらえる、はず。。。

→ 僕の場合は66.5単位認定された

放送大学で不足分の単位を補うことも可能

→僕はプログラミングと体育、統計学を放送大学で取得した

# 単位認定について

	月	火	水	木	金
1	授業	授業	授業		
2	授業	授業	授業		
3		授業		授業	
4	授業	授業		授業	
5	授業	授業		授業	
6	授業	授業		授業	

# 単位認定について

たくさん単位が認定されれば、学生生活に余裕が出る。  
卒業への不安が軽くなる。



張り切って放送大学でプログラミング演習をとったせいで、筑波大学でプログラミングの入門的な授業を受けれなくなった。  
統計学は普通に大学の授業を受けたかった。

# 単位認定について

## いっぱい単位認定した方がよい人

- ・ 気楽な大学生活を送りたい人
- ・ ある程度基礎力があり、3年次からの授業をたくさん取りたい人

## そんなに単位認定に気合を入れないでいい人

- ・ 基礎的な学力・知識に不安がある人



とは言え、

単位は多く認定されるに越したことはない。

# 学生生活

自分あんまり友達いない派の人間。

→これはコロナのせいなのか3年次編入のせいなのか、ただ単に僕のせいなのか謎。

筑波大学自体は編入生にとってもやさしい。

→入学前に編入生を集めてくれたり、出会いの場を提供してくれる。



友達は多くいるに越したことはない。

# おわりに

とにかく今は受験のことだけ考えておけば大丈夫。

**ご清聴ありがとうございました。**